

らしつよチャレンジ 2020 「外国人向け行政看板のわかりやすさに関する実践的プロジェクト」

活動地域、場所等:京都市 鴨川 活動時期:2020年 6月～ 2021年3月
 代表者所属・氏名: 現代社会学部現代社会学科 2回生 近藤 優衣 林 可奈

事業の目的

京都市内で外国人(在住者・旅行者含む)の訪問頻度の高いエリアにおいて設置されている看板や標識に焦点を置き、特に鴨川でのマナーを呼びかける看板のわかりやすさについて確認し、よりよい情報伝達について考察・提言する。そして、外国人観光客や国内旅行者、京都府民にとって過ごしやすい安心・安全な京都のまちを目指す。

事業の成果

提案した看板の修正案は、京都らしい一種のアートに仕上げ、見る人により一層興味を持ってもらえるようなものを目指した。また観光地のグローバル化が進んでいく中で人を導く存在である看板のグローバル化にも努めた。この活動は鴨川の本래の在り方である「心休まる憩いの場」を取り戻すことに役立つと考えている。

活動の様子

調査

調査対象となった2つの看板



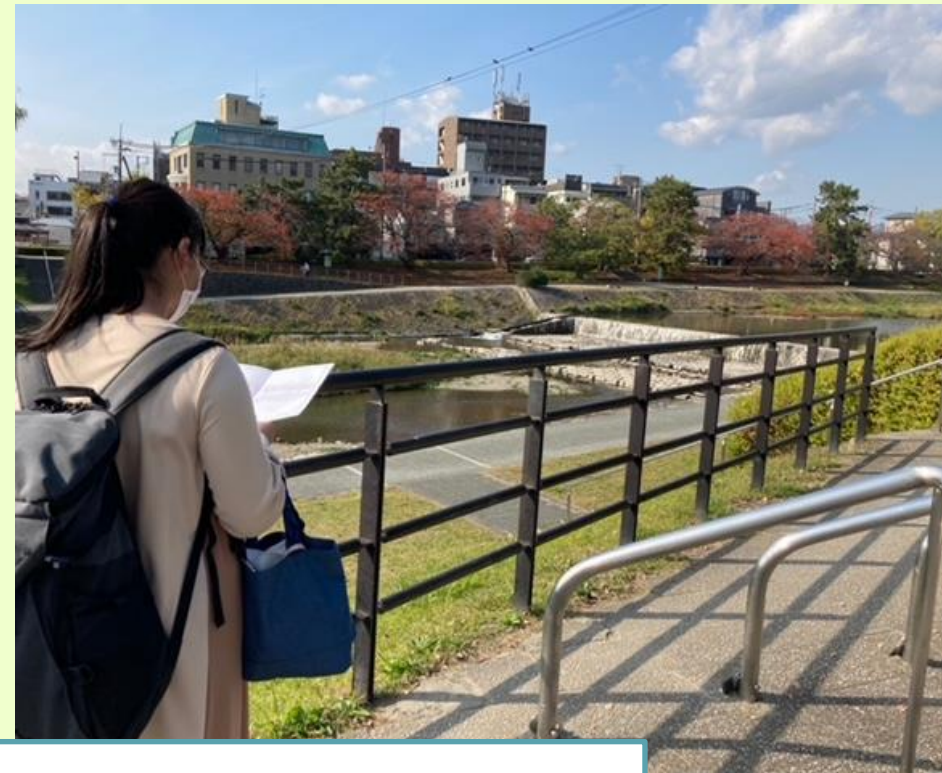
看板1



看板2

京都府土木事務所の担当者様と話し合い、調査対象の看板を決定

フィールドワーク



鴨川で現地調査
 四条大橋から北山大橋までの区間にある全ての行政看板の位置をGoogleマップに記録し、看板の位置や向きなどを確認。

外国国籍の外国人を対象としたアンケート・ヒアリング調査 (Zoom・LINE通話・Google form等を利用)

インタビュー対象者は留学生や本学外国人教員など20～50代 国籍はアメリカ・韓国・中国・台湾・イギリス・ドイツ・フランス・フィリピン

検討



外国人に行ったアンケート結果を基にこれら二つの行政看板が外国人に正しく認識されているのかを調査。どの部分が外国人にとって分かりにくく、どのようにすればより分かりやすいものになるのかを検討。(学内で対面会議を2回行い、その他はZoomで週1回を目安に会議)

デザイン担当グループと表記担当グループに分かれて話し合い

修正案を考えていくうえでの私たちのVision

- ・「京都らしく」
- ・「わざわざ看板を見に来るぐらいのユーモアに溢れた」
- ・「注意喚起の役割以外の価値を」
- ・「今後何十年も愛され」
- ・「これまでの看板の概念を覆した」
- ・「signboardではない新たな固有名称を生み出す」

アートのような看板を作りたい

修正

Before



After



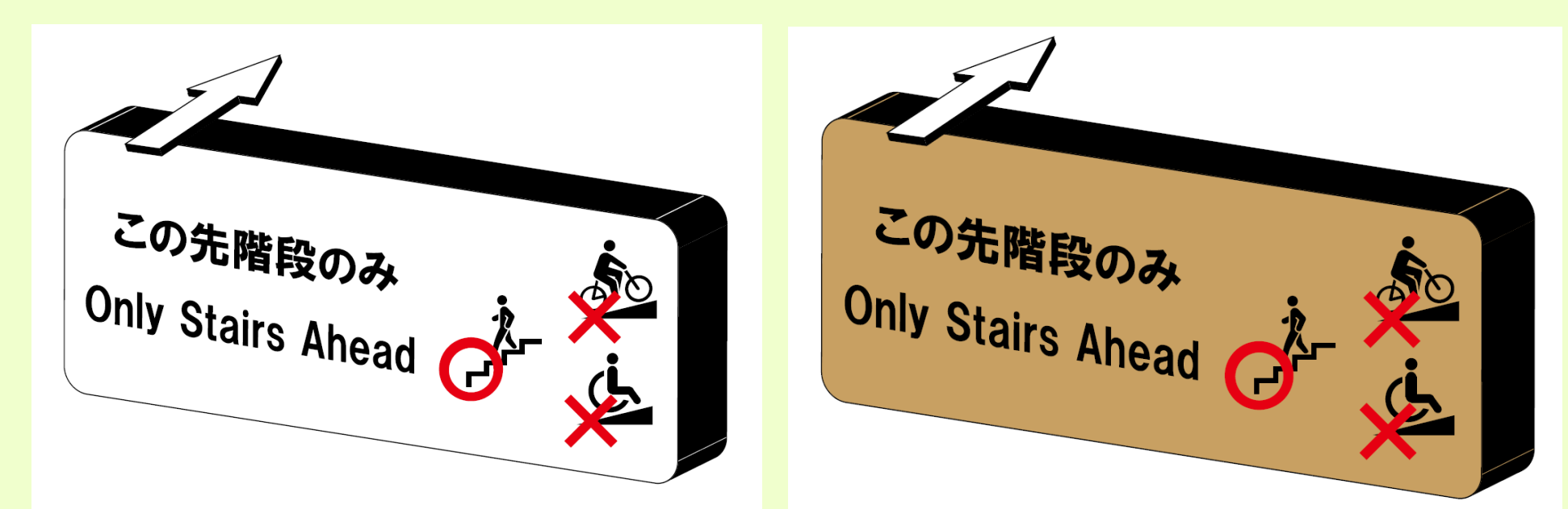
看板は白黒バージョンとカラーバージョンを作成

【看板1の修正案】
 「自転車に乗っている目線」のデザインにすることで自転車に乗る人に向けての看板であることを明確にし、より分かりやすい注意喚起に。また、新たに英語表記を追加し京都らしいデザインにした。

Before



After



【看板2の修正案】
 看板を浮かせるように立体化し「この先にはスロープがない」ということを明確にするため、スロープを加えたピクトグラムを新たに追加。また、情報量を減らし簡潔にまとめた。

大学の使命との関係性

他学部・他学科が一体となって街の快適な環境づくりを考えることは「学生自身の創造性と探求心」を身につめることにつながった。このスキルは本学の使命である「一生続くチカラ」であると考えている。そして、社会において誰一人として取り残されることなく全員が快適に過ごせる環境づくりを模索することは「社会の幸せ」に繋がると考えられる。